

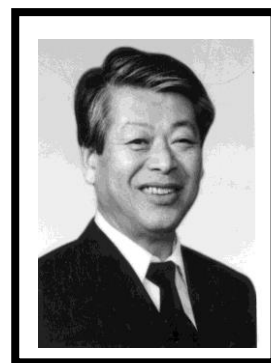
追悼

山下博志 前会長を偲んで

小瀬 三郎

ニューセラミックス懇話会 参与
連絡先 kose-saku@iris.eonet.ne.jp

当会の前会長でありました山下博志さんが、運動機能が徐々に衰えていく難病（多系統萎縮症）を患って自宅療養中のところ、昨年9月7日に亡くなられました。73歳（1941—2014）でした。彼は京都大学理学部大学院を経て1973年4月、大阪工業技術試験所に入所され、改組後の独立行政法人 産業技術総合研究所 関西センターを2007年3月に退職されました。頭脳明晰で発想力・行動力に富んだ明朗快活な研究者であったことは誰もが認めるところです。もう山下博志さんは還ってこない。寂しいかぎりです。



彼がむちうち症用コルセットを首につけて当会研究会（2006年12月）にやって来られたことで、はじめて彼の身に何か異変が生じたことを感じました。今まで風邪ひとつ引いたことのない健康体でしたから驚きでした。はじめは歩行時に少しふらつく程度でしたが、お会いするたびに少しずつ症状が進行していることがわかり、励ましや慰めのことばに窮するようになりました。家庭での状態を奥様が話してくださいました。最初は世界中の治療法をパソコンで検索されていたようですが、有効な治療法が見つかりません。あるときは、治療法確立のためにお役に立てるのなら人体実験をしてもらっても構わない、詳しいレポートを書くからと、担当医師を困らせたこともあったとか。彼らしい発想ですね。目の離せない介護が必要になった昨夏、大学の先輩からiPS細胞の山中伸弥教授に相談するよう勧められましたが、精根つき果ててしまっていたのでしょうか、実現することはありませんでした。

彼と当会とのかわりには、大阪工業技術試験所時代、理事に就任されたことに始まります（1993年4月）。ガラス・セラミックス部長・滋賀県工業技術センター所長などマネージメントに多忙を極めたときでさえ、当会の活動に積極的に協力されていたお姿が偲ばれます。2003年7月からは光藤裕之先生（岡山大学名誉教授）の後任として会長に推薦され、2007年6月まで会の運営に尽力されました。会長としての功績で特筆すべきは、小久保正先生（当時、京都大学教授）をリーダーとするバイオ関連セラミックス分科会の立ち上げであります。名誉会長であった故・小泉光恵先生（当時、大阪大学名誉教授）と一緒に小久保研究室を訪問して協力がたをお願いされたことが忘れられません。また当会行事のメインイベントのひとつであるニューセラミックスセミナーの企画立案においても会員が最も関心のあるテーマの選定に苦労されていました。

光物性を専門とする研究では、数々の成果をあげられました。印象に残っていますのは、太陽光あるいは人工光を集光して照明を必要とする箇所へ石英ロッドを使って導くための光伝送路を開発されたことです。この伝送路技術は、沖縄県において藍藻類の栽培システムに応用されたほか、拡散照明を必要とする事務機器への適用が検討されました。

彼を語るにアルコールを避けて通ることはできません。盃を傾けながらの科学談義には彼特有のアイデアを聴くために集まってくる人が多かったことが思い出されます。山好きな彼は一升瓶を背負って登山したこともありました。しかし、アルコールで他人に迷惑をかけることはなく、千鳥足になることもありま

せんでした。すごく綺麗な飲みっぷりでした。床に伏してからは医師から当然の如く禁酒を強くいわれていましたが、自宅で祝い事があるときなどには、奥様の計らいで、お気に入りのマッコリーをお猪口に一杯程度、美味しそうに口にすることがあったそうです。

奥様の8年余りの介護は大変だったと思います。特に嚥下障害が出はじめてからは食事の献立に苦勞されたようです。幸いなことに、3人のお嬢さまが近くに家庭を構えられていて、ご夫婦で介護に協力されたとのことでした。

彼のいろいろなことを偲びながら、安らかなご冥福をお祈りいたします。